《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	総務部

②	重点目標	１）教育活動及び諸校務の適正かつ円滑な運営を図る。 ２）危機管理意識の高揚 ３）地域や関係団体との連携を深める。 ・ＰＴＡとの連携 ・同窓会との連携	P
③	現状	・生徒数がここ数年で激減したため、いろいろと行事等のあり方を考慮する必要性がある。 ・ＰＴＡの参加率の低さは、どこの学校でも言われることであるが、ＰＴＡに対して、興味が無いということではない。 ・５０周年（令和９年）に向け、同窓会やＰＴＡとの連携を本格化させる。 ・にかほ市との連携がかなり進んできた。 ・保護者が本校の危機管理マニュアルを知らなかった。	
④	具体的な目標	・防災の日の実施。 ・５０周年に向けての内容を決め、ＰＴＡ、同窓会との連携を図る。 ・総務の行事を見直して、生徒数の減少に対応できるようにする。 ・ＰＴＡ総会の紙面会議等の開催の検討。	
⑤	目標達成のための方策	・分掌間の連携、月毎の学校行事等の調整。 ・学校要覧、分掌経営計画、校内規定集の整備。 ・危機管理意識の啓蒙。 ・関係団体との連携強化（５０周年を見据えて）。 ＰＴＡ活動の推進と充実。 同窓会の組織強化と活動の促進。	
⑥	具体的な取組状況	・ＰＴＡ総会で来なかった保護者への紙面会議の実施。 ・「地震・津波が発生した場合の対応」の全校に配付。 ・５０周年に向けての５０周年実行委員会を開催。	D
⑦	達成状況	・紙面会議では６６名の保護者が回答を寄せ、大体７０名前後は参加をしたと見なせると思う。それであれば、来年以降は無理にリアルなＰＴＡ総会をなくして、紙面会議のみでできるのではないかとも思う。 ・「地震・津波が発生した場合の対応」を全校に配付したにもかかわらず、保護者は仁賀保高校の防災について理解されていなかった。 ・同窓会も５０周年に向けてかなり意欲的な動きをしており、今後様々な協力が得られそうである。	
⑧	自己評価	（評価） B ・生徒が減少したことを含め、他校や中学校などの例を参考にお互いに負担にならないようにしたいと考えている。そういう面で、新しくいろいろな事に取り組んだ。 ・５０周年を見据えた動きもあるが、やはり、まだ２年ごということもあり、みんながピンときていないように感じるが、一つの大きな区切りであるため、みんなが「よかった」と感じられるようにしたい	C

↑ 評価基準 ↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた　Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	（評価） B （意見） ・教育方針や情報共有、地域貢献、入学満足度の肯定的な数値が高く、すばらしい ・PTA総会を紙面会議にするのは興味深いです。 ・PTAの直接的な関わりが必要だと思う。 ・防災計画は根気よく発信してほしい。 ・防災計画を配布後、理解できたか意見を回収したらどうか ・生徒が施設の設備のどこに不満を持っている知りたい	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・とりあえず、PTA総会は続けるとして、方法を考えないといけない ・防災計画にプラスして、保護者を巻き込んだ防災訓練やシミュレーションができればよいかもしれない。 ・生徒の施設の不満を調べる必要がある。	A

《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	教務部

②	重点目標	・学ぶ意欲を喚起させるため、学習環境の質的向上を図る。 ・基礎的・基本的学力の定着、学習に向かう姿勢の確立に向けた取組を推進する。		P
③	現状	・学ぶ意欲の向上に向けて組織的に授業改善に取り組んでいるが、生徒のアンケート結果等によると学習意欲の向上に結びついていない現状がある。		
④	具体的な目標	・「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目の数値を上げる。昨年度3.68→3.70		
⑤	目標達成のための方策	・ＩＣＴ機器を効果的に活用する。 ・授業のユニバーサルデザイン化を促進する。 ・学ぶ意欲の向上につながる学習評価を実施する。		
⑥	具体的な取組状況	・授業アンケートを２回行うとともに、授業改善旬間を設け、相互の授業参観を通して授業改善を推進した。		D
⑦	達成状況	・授業評価「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目　R6 3.68 → R7 3.64		
⑧	自己評価	（評価） B	（根拠） ・目標達成に向けて取組を行ったが、学習意欲の向上の数値は不十分であった。授業アンケート昨年比 -0.04	C

↑
評価基準
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた　Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・簡単なテスト等を行い、達成感を与えてはどうか。 ・授業評価について、生徒が何を楽しいと思うのか、ニーズを調査する必要があるのではないか。 ・保護者に自分の子どもがどのようなことを学んでいるのか知ってもらう必要があるのではないか。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・毎年行っている授業アンケートの項目を見直し、生徒がどのような学びを求めているかを調査するとともに、学習センターと連携しながら、生徒の学ぶ意欲を高めていきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	生徒指導部

②	重点目標	・他者を尊重しつつ、主体的に考え行動できる生徒を育成する。	P
③	現状	・利己的な言動によって人間関係をうまく構築できない生徒が一部に見られるが、他者を尊重しなければならないことは概ね理解されていると思われる。	
④	具体的な目標	・仁賀保高校の一員としての自覚を持ち、その場の状況に適切に対応した言動ができる生徒を育成する。	
⑤	目標達成のための方策	・他者を尊重する意識を育むため、授業や学校行事、集会等あらゆる学校生活の場面で積極的に働きかける。 ・日常的な声かけを通して生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見や未然防止を図る。	
⑥	具体的な取組状況	・集会等だけでなく、授業や学校行事等普段の学校生活の様々な場面の中で、他者を尊重することの重要性を考えさせる機械を設定するようにした。 ・いじめ防止委員会を適宜開催し、各学年部と緊密に連携をとって情報を共有しながら、生徒の小さな変化も見逃さないよう実態の適切な把握と対応に努めた。	D
⑦	達成状況	・全体的に他者を尊重する意識は浸透しつつあると感じられるが、自分本位の言動をする生徒が一部に見受けられる。	

⑧	自己評価	（評価） B	（根拠）・全体的には他者を思いやることのできる生徒が多く、そのためか問題行動もほとんどなかったが、自己中心的な言動で中々指導に従わない者がいた。	C

↑ 評価基準 ↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた　B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・生活習慣やルール、マナー等への指導は、学習以前に大事なことだと考える。各家庭の温度差はあると思うが、学校側は継続して指導してほしい。 ・生徒指導上の問題は、早期発見がすべてだと思う。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・他者を尊重する意識を育むため、他者の状況や感情に理解を示し共感することの大切さをあらゆる場面で考えさせる。 ・日常から生徒をしっかりと観察して何かあったらすぐに対応し、粘り強く指導を継続していくことを心がける。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	進路指導部

②	重点目標	・基礎学力の定着と進路決定に必要な応用的・発展的な学力伸長 ・３年間を見通した進路指導計画作成 ・キャリア教育の視点を取り入れた体験活動の実施と自立心の育成	P
③	現状	・中学校段階の基礎学力の学びなおしが必要な生徒が多い。 ・学習習慣定着率が低く、学習の仕方が分からない傾向が強い。 ・思考・判断力や知識を問われる活動には苦手意識が強い。 ・製造業を志望する生徒が多い。県外就職でも製造職希望が多い。	
④	具体的な目標	・進路決定に必要な基礎学力と応用的学力の伸長 ・地元企業の魅力やその職種についての理解と地元定着の促進 ・自立的に進路に向かうキャリア教育の視点に立った進路指導	
⑤	目標達成のための方策	・朝読書や朝学習で地道に考えたり、知識を取り込む時間の設定 ・３年間を通した学習課題や補習、個人指導による学力の伸長 ・地元の職場見学やブース形式での面談、外部講師による講話による就職先や進学先についての理解促進、インターンシップ活用	
⑥	具体的な取組状況	・学年部との連携により、朝読書や朝学習、週末・長期休業中の学習課題提出を実施 ・２年夏休みのデジタルアカデミックインターンシップの他に、希望する職種の職場見学やインターンシップ参加促進 ・６月、１０月の進路学習会で、地元企業や県外の企業や志望校のブース形式説明会を実施（今年から回数・参加企業数共に増）	D
⑦	達成状況	・今年は、就職内定県内24人のうち製造業が18名(75%)、県外5人のうち同4人(80%)と製造職希望が多く、年内に全員が内定した。 ・進学に関しては、３名が第一志望の公立大学に合格している。	
⑧	自己評価	（評価）B （根拠）３年生の進路では、就職指導に関しては複数回受験した者もいたが、その生徒の成長に繋がったと思う。進学に関してはこれから結果が出る生徒がいる。	C

↑ 評価基準 ↓
Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた　Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	（評価）B （意見）進路決定状況も生徒の評価も良い結果が出ている。今後も生徒に豊かな経験と情報提供をしてほしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	様々な形での生徒への情報提供やインターンシップ、本校独自の企業説明会、OB講話など今後も生徒の成長を促す進路活動を企画していきたい。「航跡」に関しては、これまで毎年発行してきたが、１年次のみ冊子配付とし、以降は毎年「資料編」のみ配付したい。	A

《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	特別活動部

②	重　点　目　標	1　集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 2　集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 3　学校行事や部活動を通して主体性や礼儀、忍耐力を身に付けさせる。	P
③	現　　状	・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事さらには部活動、ボランティア活動等へ積極的に取り組むことで、生徒は主体性や協調性を身に付けてきている一方、部員不足により活動が制限される部活動が沢山ある。	
④	具体的な目標	・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築きながら、自主的、実践的な態度と礼節を重んじる心を育てる。	
⑤	目標達成のための方策	1　生徒会及び地域の行事・部活動へ積極的に参加する生徒を育成する。 2　自分の考えを述べることができる生徒会、委員会活動の推進を促す。 3　ボランティア活動への自主的な参加を推進する。 4　充実した集団生活の確立をめざすホームルームの経営を推進する。	
⑥	具体的な取組状況	・学校行事では、生徒の少人数化だけでなく、昨今の気象状況等も含め、臨機応変に対応してきている。 ・部活動では、制度の見直しやバランスのよい配置教員等の工夫を実施。	
⑦	達　成　状　況	・学校行事では、初の総合体育祭実施や全校鳥海登山等などの伝統行事の工夫。 ・部活動では、兼部･臨時制度による活性化した部と、より一層の工夫が必要な部がある。	

⑧	自　己　評　価	（評価） A	（根拠）・全ての学校行事を生徒の主体性を尊重しながら工夫して実施することができた。それによって生徒が企画力や団結力を高め、集団の一員としての自主的・実践的な態度が成長することができたことは評価できる。	C

↑
評価基準
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた　　Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	（評価） A	（意見）生徒の少人数の中での部活動の対処や全ての学校行事に工夫を重ねながらよくやっている。今後もこの問題は、生徒の主体性を尊重しながら毎年継続して進めていかなければいけないことだと考えている。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	来年度の「総合体育祭」「全校鳥海登山」は、生徒数の減少により、全校生徒人数や男女比をみながら再検討し、より一層の工夫をしていかなければならない。また、部活動の精選・制度や在り方についても、益々の工夫が必要である。ボランティア活動では、地域に根ざした活動を今後も積極的に参加させていきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	健康教育部

②	重点目標	・保健指導の充実 ・校舎内外の美化の推進 ・救急体制の充実と意識向上	P
③	現状	・熱中症への対策が求められる。感染症も散見される。 ・生徒数の減少により清掃区域を減らしている。 ・アレルギーの生徒が在籍しており、卒業まで毎年対応を学ぶ必要がある。	
④	具体的な目標	・熱中症や感染症の対策を周知する。また、測定機器を用いて客観的に状況を判断し適切に対応する。 ・清掃の日や大清掃・清掃強化週間等を活用し、校内美化を図る。	
⑤	目標達成のための方策	・感染症への対応を職員・生徒・保護者に引き続き周知し、蔓延防止に務める。 ・健康管理に関して、職員及び必要に応じて保護者との連携を密に行う。 ・校舎内外の美化や整理整頓の習慣化に努め、快適な学習環境を保つ。 ・保健美化委員会と協力して、校舎内外の美化向上に努める。 ・全職員対象のアレルギー講習会と救命救急講習会を実施する。	
⑥	具体的な取組状況	・例年通り、養護教諭を中心に学年部や他分掌と連携し生徒の健康管理を実施した。保健だよりや各種機器も活用した。 ・毎月初に清掃の日、５月に全校外清掃の時間を設定した。大清掃・清掃強化週間も具体的な清掃のポイントを示したうえで実施した。 ・改訂された危機管理マニュアルをもとに、熱中症・アナフィラキシーなど安全管理に対する意識を高め、対応した。	D
⑦	達成状況	・校舎内外の清掃について、生徒数減もあり清掃割り当てに苦慮した部分を清掃の日の設定でカバーした。しかし、老朽化は否めず「美化」の難しさを感じる。 ・アナフィラキシー対応（救急搬送4回）が問題なくできた。	
⑧	自己評価	（評価） A （根拠）健康面について、保健だよりでの注意喚起と具体的取組や対策の紹介、測定機器を用いた客観的判断と対応、講習会の実施等により、大きな問題はなかった。球技大会（8月）から総合体育祭（6月）になったことも熱中症予防に効果的だった。	C

↑ 評価基準 ↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた　Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	（評価） A （意見）これまで同様、健康管理と救急体制の充実を願う。校舎の老朽化は否めないが、美化はできる。校内清掃について、生徒達自身に美化に取り組む姿勢をもってほしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・他分掌と連携した学校行事日程の見直しの継続 ・「すぐーる」を使った保健だより発行の情報発信（情報受取の確認含む） ・毎月初の「清掃の日」や考査後の「清掃強化週間」の周知と指導の徹底を図る。	A

《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	健康教育部（教育相談）

②	重点目標	・不登校・学校不適応生徒への早期対応 ・生徒の自立や自己実現のための支援体制の確立 ・教育相談に対する生徒や職員、保護者の啓発	P
③	現状	・中学校や小学校で不登校だった生徒が多く入学している。 ・生徒数の減少により所属が限定され、教室以外の人間関係や居場所作りが難しくなっている。 ・対人関係への不安や苛立ちが身体症状や言動に表れることも多い。	
④	具体的な目標	・職員・生徒・保護者への情報提供を行う。 ・相談しやすい環境を整え　自立や自己実現に向けた支援を行う。 ・カウンセラーや外部の相談機関とも連携して対応する。	
⑤	目標達成のための方策	・生徒について、全職員や各家庭との情報交換を積極的に行う。 ・１年生対象のSC講話を実施する。 ・学年部と連携し生徒・保護者が適切にSCに繋がれるよう支援する。 ・定期的に特別支援教育校内委員会を設定・開催する。加えて、必要に応じ適宜開催設定する。 ・特別支援の視点からの生徒観察や助言の機会と職員研修を設定する。	
⑥	具体的な取組状況	・必要な情報は該当学年等と共有し、家庭との連携に努めた。 ・特別支援教育校内委員会を開催し、個別の支援計画・指導計画の作成を含め、対応した。特別支援チームの先生方にも助言いただいた。 ・１年生対象のSC講話（アサーション）を実施し、心地よい人間関係とコミュニケーションについて生徒に示し、よい機会となった。 ・特別支援チームの派遣により、職員研修を２回実施した。支援が必要な生徒の進路実現について学ぶ良い機会になった。	D
⑦	達成状況	スクールカウンセラーの活用は概ね順調である。継続１名、新規に５名の生徒が相談につながった。うち、３名は複数回、面談を継続中である。面談後のコンサルテーションが丁寧に実施され、対処方法等のアドバイスをしていただいた。 特別支援については、前年度同様対応の難しさを感じつつ支援に努めた。 生徒対応については、診断のない生徒の対応に苦慮する場面が多かった。	
⑧	自己評価	（評価）B （根拠）全職員対象の校内研修を２回実施できた。個別の支援計画・指導計画の作成に取り組んだものの、効果的な活用にはいたっていない。ＳＣ来校の保護者・生徒への直接の周知が不足していた。	C

↑ 評価基準 ↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた　Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	（評価）A （意見）不登校や不適応生徒への対応は、家庭との協力が欠かせない。適切な連携や必要な診断が進むような取組が必要だ。（診断拒否などのケースも多く、今後の課題だ。）	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・ＳＣ来校に関し、保護者・生徒へ教育相談だよりの発行や「すぐーる」を活用した発行情報の提供の適切な情報共有を行う。 ・特別支援の職員研修の継続。 ・入学前の生徒理解調査の実施継続とフォロー体制の強化。	A

《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	教育情報部

②	重　点　目　標	・生徒の情報機器の管理と情報モラルに対する意識を高める。 ・教員のＩＣＴ活用能力の向上を図り、授業改善に資する。 ・施設、設備、機器を適切に運用する。	P
③	現　　状	・生徒にChromebookの適切かつ丁寧な使用を指導している。 ・ＩＣＴ活用は進んでいるが、指導者の習熟度に個人差がある。 ・図書貸出冊数および来館者数が低迷している。	
④	具体的な目標	・生徒の自覚を促し、破損や不適切な使用の減少を図る。 ・授業実践の共有や情報交換を通じて、ＩＣＴ活用力向上を図る。 ・施設、設備、機器等の学校環境を良好な状態に維持・管理する。	
⑤	目標達成のための方策	・分掌や教科と連携し、情報機器の管理と情報モラルを指導する。 ・必要や要望に応じた研修の実施や有用な情報の提供に努める。 ・県立学校学習ネットワークシステムおよびe-AKITAの管理・運用、各種視聴覚機器の維持・更新を行う。 ・蔵書を充実させ、授業や特別活動での図書室利用を促す。	
⑥	具体的な取組状況	・新入生を対象にＩＣＴオリエンテーションを行い、Chromebookや機器の正しい使い方が習慣化するよう指導した。 ・自動採点システムの活用を進め、教員の業務効率化を図った。 ・Chat等による情報提供で、公的研修（オンライン研修を含む）の日程を周知し、参加促進に努めた。 ・図書の購入希望を募り、蔵書を更新し学習環境の充実を図った。	D
⑦	達　成　状　況	・生徒の情報モラルを意識した機器利用が低下傾向にある。 ・授業や校務でのＩＣＴ活用が高まり、効率化が進んでいる。 ・蔵書更新は順調だが、図書室利用の向上にはつながっていない。	

⑧	自　己　評　価	（評価） B	（根拠） ・ＩＣＴ活用や設備管理の取組は概ね順調で、研修や情報共有により教員の活用力向上も見られるが、生徒の情報モラル低下や図書室利用の伸び悩みが課題である。	C

↑
評価基準　Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた　Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） ・読書の大切さを再認識させるとともに、図書や情報設備の利便性を実感できる授業や活動を増やすことが望まれる。利用目的を明確にすることが利用率向上に繋がるため、生徒の目的意識を高める働きかけが重要である。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・放課後に学習センターと併用する図書室を間仕切りで分け、利用しやすい環境に改善する。各教科と連携し図書や情報設備を活用する授業を増やし目的意識を高める。ＢＹＯＤや生成ＡＩを見据え、低下傾向にある情報モラルの指導を強化し適正利用を促す。		A